
雪の日の葛藤

水連真澄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪の日の葛藤

【Nコード】

N2779BA

【作者名】

水連真澄

【あらすじ】

うんざりするけど、好きなもの。ある冬の日の、積雪に思う。

白く降り積もる雪。

世の中には、それをロマンチックだと言う人もいるらしい。
私にとっては、ただ迷惑なだけなのに。

まず第一に、雪かきが面倒。

第二に、道が歩きにくくなる。

他にも色々あるけれど、一番厄介なのは、溶けかけた雪が屋根から落下すること。当たると結構痛い。

だから、そう。

私にとって、雪は凶器だ。

出来ることなら、もう見たくもない。

でも、春になって、夏になって。

田畑を流れる小川の流れを眺めながら、きっと私は思っのだろう。
今年も雪のおかげで干ばつにならなくて済むね、と。

昔ながらのおばあちゃんの知恵袋じゃないけれど、雪の少なかった年は、雪解け水も、雨の量も少ないのだ。だから実は、カマキリの卵の高さとか、雪にまつわる言い伝えを、初冬には気にしてしまう。

こうして実際に降り積もると、うんざりするの。

外からガリガリと音がする。隣人が家の前の雪かきを始めたようだ。

雪はまだ降り止まない。

家が真っ白になる前に、せめて通路くらいは確保しなければ。

湿布の臭いがする身体に鞭打って、コートを羽織る。
今夜もまた、筋肉痛になりそうだ。

（後書き）

先日雪かきをした後に思いつきました。豪雪地帯に住む人なら、一度は思ったことがあるかもしれません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2779ba/>

雪の日の葛藤

2012年1月7日01時50分発行